

6万円で実現できる! お手ごろワイヤレス

Photo: Nakamura Tohru

# 無線LAN・ルーター 購入ガイド

ここ数か月で、無線LAN環境を実現するアクセスポイント機器に加えて、無線対応ルーターという製品が充実してきた。わずらわしいケーブルは、SOHOや家庭からは消えていくのみ。21世紀のLANは、ワイヤレスがスタンダードになる。 梅垣まさひろ

Product Showcase

## 無線は現代のキーワード

ADSLやフレッツ・ISDNなどの常時接続環境が当たり前の時代を迎え、SOHOや家庭内のネットワークも急速に進展する気配を見せている。その進化の1つの側面が無線だ。すでにiモードやPDAのように、無線によるインターネットアクセスはあたりまえになっている。その無線が今度はLAN環境を変えようとしている。

これまで無線LANのアクセスポイントという製品が主流だったが、ここにきて

無線対応ルーター製品の発表が著しい。さらには、無線対応ルーターは単なるダイヤルアップや無線LAN環境を実現するだけにとどまらず、家庭とインターネットをつなぐ「ホームステーション」という新しいジャンルの製品に生まれ変わるきざしさもある。今もっともホットで見逃せない機器、無線対応ルーターの中から評判の製品をピックアップした。SOHOや家庭での無線環境の実現を考えよう。



# ネットワークを無線が変える!

無線LAN製品が今急速にSOHOや家庭内に普及し始めている。それにともない、ダイヤルアップルーターが無線への対応を見せるなど、ネットワークを無線化する機器や技術が低価格で手に入るようになってきた。無線ネットワーク普及の背景を探ろう。

## 広がり始めた無線ネットワーク

パソコンショップのネットワーク関係の売り場をのぞいてみると、この1年の大きな変化にあらためて驚かされる。無線LANカードやそのアクセスポイント、無線対応ルーターなどが、ところ狭しと並べられているからだ。以前はアクセスポイントが主流だったが、最近では無線LAN機能を内蔵したり、オプションで無線機能を追加できたりするルーター製品が増えてきている。とりわけ、ダイヤルアップルーターの2大メーカーであるNTT-ME、ヤマハがそろって無線機能を備えたルーターを世に出したことで、その流れは本物になってきたと言えるだろう。

## 互換性が普及のカギ

無線LANの普及のカギは、IEEE 802.11bと業界団体WECA(Wireless Ethernet Compatibility Alliance)が互換性を保証するWi-Fiロゴにより、異なるメーカーの製品間でも相互接続が可能になったことだ。Wi-Fiロゴを取得していないものについては、メーカーごとの違いが残っており、完全

な互換性を持っているとは言えない。だが、実際にネットワークを利用するという点ではIEEE802.11bに対応するほとんどの製品で、その相互接続性が事実上確保されたと考えてよい。もちろんマッキントッシュとウィンドウズが混在していても使えるし、製品によってはそのメーカーの旧来の製品(IEEE802.11準拠の2Mbpsのカードなど)との互換性を保障するメーカーもある。

有線のネットワークでは、異なるメーカーのイーサネットカードを使うことをためらう人はいないだろう。100BASE-TXと書かれていればどれも同じように使えるからだ。無線LANの世界でもようやくIEEE802.11bと書かれていれば安心して使える、そういう時代を迎えようとしているのである。

[www.wirelessethernet.com](http://www.wirelessethernet.com)

## Bluetoothが無線に火をつける

もう1つのホットな無線技術Bluetoothも第1世代の製品が出始めたところだ。Bluetoothは電話やパソコン周辺機器などを数メートルの狭い範囲で無線を使っ

てつなぐ技術だが、LANではない。ただ、無線LANの対抗技術と見なす人も多い。スピードこそIEEE802.11bの11Mbpsに比べて1Mbps弱と遅いが、Bluetoothはコストが大幅に下がる可能性を秘めており、家庭内などの狭い範囲ならLANを代替できるという考え方もあるからだ。また、ノートパソコンには標準的にBluetoothが搭載される可能性も大きい。いずれにしろ、無線LANとBluetoothが相まって無線環境を推進する。今後の展開を見守りたい。

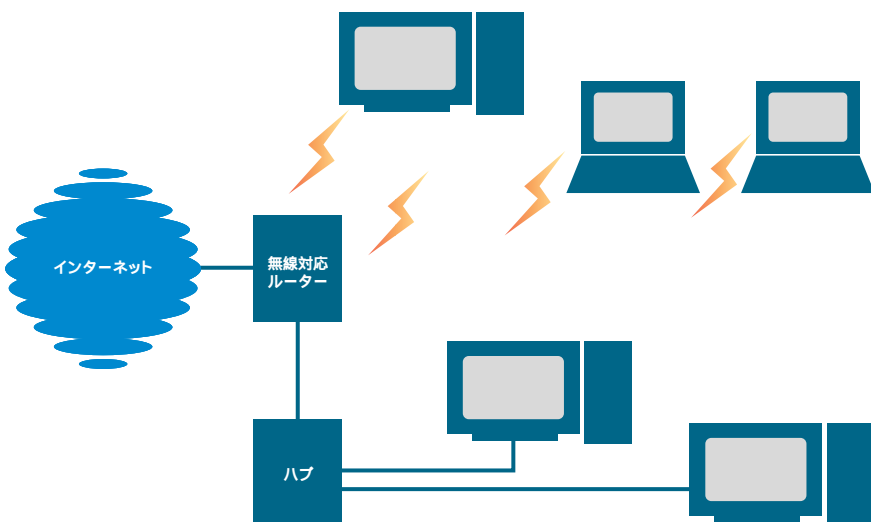
[www.bluetooth.com](http://www.bluetooth.com)

## ブロードバンド時代の無線LANへ

無線LANとルーターをめぐる新しい機能や規格への挑戦も始まっている。まず目につくのは、ヤマハのRT60wの「機器間アナログ通話」機能だ。この製品では、ISDN回線に接続していない2台目以降のRT60wのアナログポートに接続した電話機から、内線も外線も利用できる。現在はこれだけの機能だが、インターネットと電話の融合の可能性という点で注目に値する。インターネット電話の1つの可能性を見せてくれる。

新しい無線プロトコル「Whitecap」を採用した松下電器のIPルーター、KX-HGW100もおもしろい。この規格では、電話や動画のストリーミング再生などリアルタイム性が必須となる機能を盛り込んでいる。放送と通信の融合が進めば、インターネットと家庭の「結び目」が必要だが、KX-HGW100はそのような将来を見通した製品と言えるだろう。「ホームゲートウェイ」という名にそのコンセプトが色濃く反映している。

無線LAN規格の標準化を進めるIEEE802.11では、ストリーミングへの対応やアクセスポイント管理のためのプロトコルなど、次世代の無線LANを支える技術の標準化も進んでいる。ブロードバンド時代の家庭内ネットワークを支える技術として、無線LANはますます目が離せない。



## 21世紀はワイヤレス!

無線LANを導入するとケーブルの呪縛から解放され、パソコンの活用範囲がぐんと広がる。現在市場に出回っている製品なら、メーカーが違っても互換性はほぼ大丈夫。また、これから必要機材をそろえようとするなら、ダイヤルアップルーターに無線LAN機能が備わった無線対応ルーターがおすすめだ。



# ワイヤレスでインターネットを楽しもう!

ネットワークをワイヤレスにすると、あたりまえだが配線が不要になる。そしてノートパソコンを使えばライフスタイルや気分に合わせていつでも自由な場所でインターネットが楽しめる。ここでは、その方法と機器の選択法を紹介しよう。

## 無線対応製品の分類

無線に対応したネットワーク機器と言っても、現在はその方式や対応するアクセスラインの種類によっていくつかの選択肢がある。どれを選択するかは、次ページのケーススタディーも併せて読んでうえで判断してほしいが、ここではまず、機器の種類とメリット、デメリットを押さえておこう。

なお、無線LAN環境を実現するには、アクセスポイント、無線対応ルーターのほかに、パソコン側に無線LANカード(PCカードやPCIボード)が必要となる。

### ・無線LANアクセスポイント

現在、市場で数多く販売されている無線LAN製品だ。無線と有線(10BASE-Tなど)をブリッジする機能と、無線クライアントを管理して相互の通信を制御する機能を持っている。もちろん、アクセスポイントだけ買ってインターネットにつながらないので、ルーターやCATV、ADSLモデムなどと一緒に使うことになる。無線LAN汎用なので、将来新しい無線LAN製品が発売されたときにも、アクセスポイントだけを購入しなおせばよい。また、ISDNからADSLなどに乗り

換えるときにもそのまま使えるなど、その用途が広いのが特徴だ。

### ・無線対応ISDNルーター

ISDNダイヤルアップルーターの機能に無線LANを統合したものだ。ルーターと無線LAN機能がオールインワンなので設置場所で悩むこともないし、アクセスポイントとルーターを別々に購入するよりも安価になる。最近では無線機能に対応したルーターもバラエティーに富み、選択肢も多くなってきた。ダイヤルアップルーターに無線LANの機能を追加したスタンダードなもの以外に、シリアルポートでモデムやTAと接続することで、ダイヤルアップルーターとして利用できるタイプもある。

なお、無線と有線の間を内部でブリッジ接続するタイプが主流だが、一部には有線LANと無線LANそれぞれにインターフェイスを割り当ててルーティングできるものもあり、ネットワーク管理が必要なオフィスなどに向けた製品もある。

### ・無線対応IPルーター

CATVやADSLなどによるインターネット

アクセスでは、IPルーターなどのNAT機能を持つ製品を使うのが一般的だが、そのIPルーターに無線LANの機能をアドオンしたのがこのタイプだ。まだ製品数は少ないが、無線LANのアクセスポイントと同じハードウェアで実現できることもあって、常時接続の普及とともに、この手のIPルーターやNATボックス製品が増えてくるものと思われる。

### ・PIAFSによるTAの無線化

ルーターや無線LAN製品ではないが、PHS電話の規格であるPIAFSを使ってワイヤレスネットワークを実現できるTAがある。その代表はNECのAtermワイヤレスシリーズだ。データ転送速度が64kbpsと無線LANの11Mbpsとは比べものにならないが、シンプルさや使い勝手のよさで人気が高い。インターネットへの接続ラインとして64kbpsあれば十分というユーザーにはお手頃な製品と言えるだろう。

また、TA製品にあって無線LANにはないメリットとして、電話がワイヤレス化できる、PHS電話機を子機登録して使えるといった点が挙げられる。

Product Showcase

機器分類	メリット	デメリット	こんな人にお勧め	製品
無線LANアクセスポイント	無線LAN、ルーターそれぞれ好きなものを選択できる	ルーターと別々なので設置場所を取るし、割高	すでにルーターを持っている人、ネットワークを変更する可能性が高いビジネス用途	メルコWLA-PCM-11/Pack コレガ Wireless LAN pack-11N アイコムDR-1WL エレコムLD-WL11/AP NEC CMZ-RT-WS
無線対応ISDNルーター	一体型で便利	買い替えの際に繰入れ替えになる	これからルーターを導入したい人、スマートに無線化したい人	NTT-ME MN128-SOHO Slotin ヤマハNetVolante RT60w
無線対応IPルーター				Panasonic KX-HGW100
PIAFSによるTAの無線化	電話も無線化できるし、導入が簡単	データ伝送速度は64kbps程度	パソコンを1台しか使わない人、安価にワイヤレスを使いたい人	NEC Aterm ワイヤレスシリーズ

## パターン別無線対応機器の特徴と代表的な製品

無線環境を実現するための機器は、このように4分類できる。まずは、メリット、デメリットを踏まえ、どのような製品があるのかを把握しておこう。

アクセスポイント本体
無線対応ルーター または 無線アクセスポイント
無線LANカード
PCカードタイプ (ノートパソコン用) PCIボードタイプ (デスクトップパソコン用)

## 無線LAN環境に必要な機器

無線LAN環境を構築するには、アクセスポイント本体や無線対応ルーター本体以外に、パソコン側にセットする無線LANカードが必要だ。製品の種類によっては無線LANカードが同梱されているものもある。無線LANカードの価格はPCカードタイプで1万円強、PCIボードタイプで2万円弱といったところ。



# 無線LAN導入ケーススタディー

各製品の違いが分かったところで、次に導入ケース別に、機種選択を行う際のポイントを見てみよう。大事なことは、どのくらいのコストをかけて、どのくらいまで将来を見通すのかという点だろう。もちろん、開発メーカーの実力やサポート力も重要な要素だ。

## ケース1

### ルーターも無線も一度に導入したい

現在、アナログモデムやISDNでTAを使っているユーザーが、ルーターと無線LANを一気に導入したいという場合を考えてみよう。家庭内で使用し、将来的なネットワークの拡張などがあまり必要でないのであれば、無線対応ルーターがおすすめだ。オールインワンなので、設置場所も取らないし、設定もルーターだけで完結する。ただし、新しい無線LAN製品が出たら乗り換えたいとか、将来的にネットワーク構成の見直しなどが考えられるのなら、あえてルーターと無線アクセスポイントを別々に購入するという選択肢もある。

## ケース2

### 現在のルーターを生かして無線化

すでにルーターを持っているというユーザーの場合は、無線アクセスポイントだけを購

入して現在の環境を無線化する方法をすすめる。この方法は最も柔軟性があり、将来の拡張時にも対応できるので安心だ。またこの方法だと、ルーターをNTT回線の引き出し口のそばに置き、そこから有線LANで無線アクセスポイントまで配線できるようになる。広い家やオフィスでは無線の電波が隅々まで届くベストポジションにアクセスポイントを置く必要があるが、そのような場合は、ルーターとアクセスポイントが別のほうが設置しやすい。

## ケース3

### CATV、ADSLの場合は？

CATVインターネットやADSLを使い、すでにIPルーターを導入済み、あるいはあらかじめルーターでサービスが提供されている場合には、無線アクセスポイントを導入する。

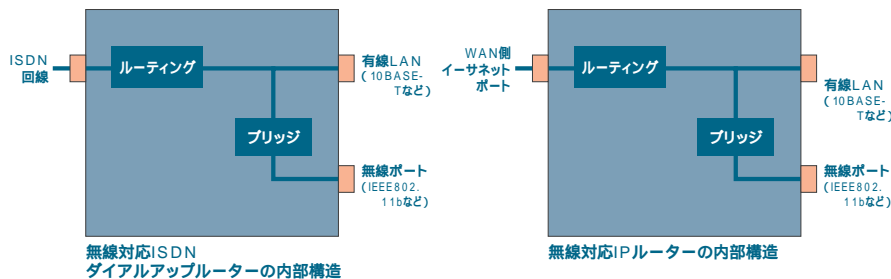
ただし、ケーブルモデムの場合には、必ずIPルーターを併用するか、CATV・ADSL

対応などどうたわわれていてIPマスカレードなどのアドレス変換機能を持ったアクセスポイントを購入する必要がある。ケーブルモデムとアクセスポイントの組み合わせでは無線LANは機能しない。

## ケース4

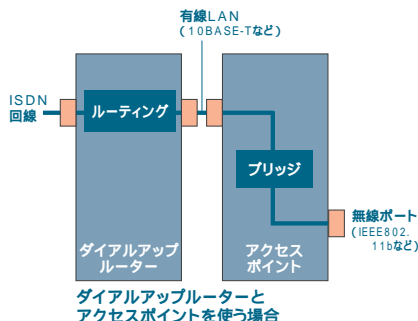
### シンプルに無線を使いたい

とにかく簡単に無線を使いたいという場合は、Atermワイヤレスステーションなどの無線対応TAやモデムがある。ルーターや無線LANでは、どうしてもネットワークカードのインストールやネットワーク関係の細かな設定が必須となるが、TAなら簡単にインストールができ、トラブルも少ない。Atermシリーズでは、従来からウィザードを使ったインストール手順がわかりやすく好評だ。また、PHSを子機登録できるのも魅力。ネットワークの難しいことはさておいて、とにかくカンタンに利用したいという向きにおすすめだ。



### 無線アクセスポイントと無線対応ルーターの違い

無線対応ルーターは通常のルーターの中にアクセスポイントの機能を追加したものだと考えればよい。ほとんどの無線対応ルーターは、ルーター+アクセスポイントの複合機だと考えて差し支えない。



### 機能と実績も要チェック!

ルーターや無線LAN製品を選択するうえでは、ここで述べたケース別という視点に加えて機能と実績の2つのポイントを検討したい。機能面では、たとえば電子メールの転送機能や、アナログポートに欲しい機能があるかどうかといった点をチェックしておくべきだ。また、ルーターはサポートやファームウェアのアップデートの実績をよく見ておく必要がある。ルーターはアップデートによりどんどん進化する製品だから、メーカーのサポート力の差がもたらす機能に反映してくるという面があるからだ。最後はそれらと価格を併せて検討することになる。バランスよく、使い方にフィットした製品を選んでほしい。



拡張性バツグンの定番ISDNルーター

## NTT-ME MN128-SOHO Slotin

定番ISDNダイアルアップルーターMN128-SOHOシリーズの最上位機種がこのSlotinだ。その名前が示すように背面に2つのPCカードスロットを備え、無線LANカードはもちろん、PCカードモデムやPHS通信カードなどにも対応している。同社の発売するIEEE802.11b互換のカード「MN128 SS-LAN CARD 11」を使うことで、無線LANの機能が使えるようになる。たとえば、今は単なるルーターだけでいいが将来的には無線を使いたいというユーザーには、この拡張性がある。また、モデムカードやPHSカードを使ってダイアルアップで接続させられるので、アナログ、PHS対応ダイアルアップルーターとしても使えるし、ダイアルアップサーバーのポートとしても使えるので便利だ。

MN128-SOHOシリーズでつかわれたエンドユーザー向けの機能を継承している点

も、このルーターの魅力だ。たとえば、きめ細かく設定できるメール着信通知機能やPHSなどへの転送機能はもとより、TA機能によってシリアルポートやUSBポート経由でダイアルアップが可能だ。

これだけの多機能だが、簡単設定ソフト「設定らくだ」により設定は意外なほどシンプルに行える。ケーブルの接続やネットワークの設定から、プロバイダーとの接続設定まで、ルーターの導入に必要なことすべてを面倒みしてくれる、すぐれもののユーティリティだ。これがあれば、初心者のユーザーでも安心してインストールが行えるだろう。拡張性が高く高機能なISDNルーターなら、MN128-SOHO Slotinは断然おすすめと言える。



価格	本体(無線LAN機能なし)	59,800円
	MN128 SS-LAN Card 11	16,800円
	MN128-SOHO Slotin AirPack11(本体とMN128 SS-LAN Card 11 x 2枚)	89,800円
問い合わせ	(株)エヌ・ティ・ティ・エム・イー(0120-128064)	
	<a href="http://www.bug.co.jp/mn128/">www.bug.co.jp/mn128/</a>	

ワンランク上の高性能ISDNルーター

## ヤマハ NetVolante RT60w

ヤマハのRTシリーズは、家庭用だけでなく業務用としても広く使われている信頼性の高いISDNダイアルアップルーターだ。同社のRT103iはSOHOでのダイアルアップや専用線環境では定番のルーターだし、コンシューマー向けのNetVolante RT50iもちょっと上の機能と性能を求めるパワーユーザー御用達の製品だ。

NetVolante RT60wは、このRT50iの機能をベースに無線LANの機能を加え、デザインを大きく一新したものだ。

他社製品と際立って異なる点は、まず自社では無線LANカードを発売せず、IEEE 802.11b互換の他社製カードを動作確認して公開しているという点。この情報があるおかげで、互換性の確認された無線LANカードを安心して使用できる。

もう1つの違いは、無線ポートの扱いだ。

他社のダイアルアップルーターではたいてい無線LANと有線LANはブリッジ接続となっていて、IPアドレスのグループは同一となっている。だが、RT60wでは、ブリッジ動作を停止させて無線ポートにもIPアドレスを与えることができ、有線と無線の間でルーティングが可能になる。つまり、ローカルIPルーターのようにも使えるという点がこの製品を特徴づけている。これは、以前からRTシリーズの持っていたセカンダリーアドレスの機能を無線LANに有効に活用した結果、生まれた機能と言える。

RTシリーズは高機能で設定がやや難しいという面はあるが、それでも業務用途に耐えるレベルの、高機能、高性能ルーターがこの価格で使えるという魅力は大きい。業務として使いたいユーザーにはぜひとも使ってほしい製品だ。

ダイアルアップルーター  
アクセスポイント



価格	本体(アクセスポイント・ルーター)	69,800円
問い合わせ	ネットボランテコールセンター(03-5715-0350)	
	<a href="http://NetVolante.rtrp.yamaha.co.jp">NetVolante.rtrp.yamaha.co.jp</a>	

Product Showcase



HomePNAと無線LAN両対応のIPルーター

## Panasonic ゲートウェイステーション KX-HGW100

KX-HGW100は、10BASE-T(10Mbps)、HomePNA2.0(10Mbps)、Whitecap無線LAN(11Mbps、オプション)に対応したIPルーター。CATVやADSLなどのブロードバンドネットワークで使うことを想定した製品だ。HomePNA2.0は電話線を用いたネットワーク技術で、電話のコンセントやケーブルさえあれば、10BASE-T並みの速度でネットワークを構築できる。たとえば、1階と2階に電話のコンセントがある家屋なら、本機を使って簡単にネットワークが構築可能だ。HomePNAのクライアント側に必要な電話線ネットワークアダプタ(KX-HGA11)はUSBでパソコンと接続する。HomePNAは通常のアナログ電話と共存ができるので、もちろんHomePNAを使ってネットワークを利用しているときにも電話はそのまま利用できる。

一方、無線LANは別売の無線ネットワー

クカード(KX-HGC100)を本体のスロットにセットして利用する。この無線は米国Share Wave社の無線LAN技術であるWhitecapという新しい規格に準拠している。動画や音声のようなリアルタイム性の求められるデータの転送をスムーズに行えるのが特徴だ。

まだ具体的な使い道があるわけではないのだが、本機が「ゲートウェイステーション」という名称を持っているのも、今後広がりをみせるであろうブロードバンドネットワークと家庭内をつなぐ「ゲートウェイ」という点を強く意識しているからだ。当然、ブロードバンドでは動画、音声などが当たり前のように流れるようになるわけで、次の時代を見越した無線LAN規格を採用している。すべてをそろえると多少割高ではあるが、家庭内のネットワークに柔軟に対応できる次世代のルーターとして注目度は高い。

IPルーター  
アクセスポイント(オプション)



価格	本体(無線LAN機能なし)	44,800円
	無線ネットワークカード KX-HGC100	27,800円
	電話線ネットワークアダプタ KX-HGA11	20,800円
問い合わせ	パナソニックP3カスタマーサポートセンター (03-5821-3180)	
	<a href="http://www.pcc.panasonic.co.jp/p3/">www.pcc.panasonic.co.jp/p3/</a>	

とにかく簡単なルーターがワイヤレスにも対応

## NEC コムスターズワイヤレスセット CMZ-RT-WS

CMZ-RTシリーズは、使い勝手の良さ、設定の簡単さで評判のISDNダイヤルアップルーター、コムスターズ・ルータ(CMZ-RT-DP)用の、アクセスポイントオプションだ。CMZ-RT-WSは無線LANアクセスポイントCMZ-RT-WAと無線LANカードCMZ-RT-WPのセットで、コムスターズ・ルータと組み合わせて使う。他社のルーターやネットワーク機器と組み合わせて使えないわけではないが、あくまでもオプションという扱いなので、コムスターズとセットで使うのが順当。販売店などではルーターとセットで販売しているケースがあるようだ。

コムスターズ・ルータ本体は、ブラウザによる簡単設定が可能だが、ウィンドウズユーザーにはさらに簡単な「らくらく設定ウィザード」が用意されていて、とにかく初心者への配慮が行き届いている。しかも、USBポ

ート搭載、RVS-COMファックスソフトでファックスの送受信対応、着信履歴表示ができるディスプレイなど、機能も豊富。ブリッジ接続ながらアナログポートは2×2で4ポート、ハブもしっかり4ポートあり、しかも前面に1ポート備えるなど贅沢なポート数も魅力だ。電話やインターネット接続などをオールインワンですべてカバーする、なかなか頼もしいルーターだ。

ワイヤレスセットは、ルーターとイーサネット接続して使用する。ルーターと組み合わせた場合の標準価格では他社の製品よりやや高い印象があるかもしれないが、店頭での実売価格ではほとんど差がないようなので、その点は心配ない。これからISDNルーターを購入する初心者ユーザーや、すでにコムスターズ・ルータを使っているユーザーにはピッタリの製品だろう。

アクセスポイント



価格	CMZ-RT-WS(ワイヤレスセット)	54,800円
	CMZ-RT-WA(アクセスポイント)	38,800円
	無線LANカードCMZ-RT-WP(PCカード)	19,800円
	CMZ-RT-DP(ルーター本体)	49,800円
問い合わせ	NECデータコム・インフォメーション・サービスセンター (0120-498563)	
	<a href="http://ccsd.biglobe.ne.jp/comstar/">ccsd.biglobe.ne.jp/comstar/</a>	



多彩なラインナップであらゆるニーズに対応

## メルコ AirStation WLA-L11

日本における低価格無線LANの草分け的存在が、メルコのエアステーションシリーズ。ルーセントの技術を使ったIEEE802.11b規格によるカードとアクセスポイントは、他メーカーより先行して発売され、いわば無線LAN市場を切り開く役割を果たした。2000年度のグッドデザイン賞も受賞したアクセスポイントは、シルバーの柔らかな曲線を用いたフォルムで、同社の従来の製品とも一線を画している。価格は今でこそ横並びだが、IEEE802.11bの11M bps無線LANカード発売当時の標準価格は、まだ広く使われていた他社の2Mbpsの製品よりも安価で、その大胆な価格設定に驚かされた。

このエアステーションシリーズの特徴は、まずそのラインナップの豊富さだろう。シンプルなアクセスポイント(WLA-L11)からISDNルータータイプ(WLAR-128)、CATV

/xDSL対応タイプ(WLAR-L11-L)、モデム内蔵モデル(WLAR-L11-M)など豊富なバリエーションであらゆるユーザーのニーズに応えることができる。

また、無線クライアント側も、標準のPCカードタイプ(WLI-PCM-L11)に加えて、PCIバス、ISAバスでも使えるオプションがそろっている。ノートパソコンだけではなく、デスクトップ機でも利用できるのだ。壁取り付けキットや伝送距離を伸ばす平面アンテナなどのオプションも豊富で、家庭向けだけではなくオフィスのネットワークでも威力を発揮するはずだ。インストールも、メルコらしく初心者のごとを十分に考えて作られたユーティリティが助けてくれ、安心できる。無線LANの選択肢の筆頭候補として外せないのがメルコのエアステーションシリーズだ。



ダイアルアップルーター  
IPルーター  
アクセスポイント

価格	WLA-L11 (アクセスポイント)	33,000円
	WLAR-128 (無線LAN対応ISDNモデル)	45,000円
	WLAR-L11-L (無線LAN対応CATVモデル)	34,000円
	WLAR-L11-M (無線LAN対応モデムモデル)	38,000円
	無線LANカードWLI-PCM-L11 (PCカード)	14,800円
	無線LANカードWLI-PCI-L11 (PCIボード)	20,800円
問い合わせ	(株)メルコ (052-619-1827)	
	<a href="http://www.airstation.com">www.airstation.com</a>	

Product Showcase

無線機メーカーの作った無線対応ISDNルーター

## アイコム WAVEMASTER DR-1WL

アイコムは無線機メーカーとして有名だが日本でも初めて個人でも手の届く価格で無線LANを発売したメーカーでもある。早くから無線LANを手がけ、アクセスポイントや無線対応ルーター以外にも、有線LAN同士を無線ブリッジするワイヤレスLANブリッジやビル間通信ユニットなどを発売している。家庭用からオフィス、工場用まで広い範囲をカバーする製品をラインナップする。

DR-1WLのルーターとしての機能は、通常の家庭向けISDNルーターが持つ、IPマスカレードや簡易DNS機能、IPフィルタリングなどに加え、メール着信通知やNNTPによる時刻合わせ、IPsecによるVPN接続もサポートするなど本格的なものだ。ルーター本業メーカーではない割には、高度な機能を持ったグレードの高いルーターだ。また、無線に関して単なるアクセスポイントとして利

用できるだけでなく、有線LAN同士を無線でブリッジさせるルーター間無線通信機能も備えており(ただし、このときはアクセスポイントとしては使えない)、フレキシブルなネットワーク構成が可能になるなど、ワンランク上の機能を備えた製品と言える。

設定は、初期状態でDHCPサーバー機能がオンになっているので、設定用のパソコンにIPアドレスを割り振り、ブラウザで行う。「簡単設定」のようなメニューはないが、必要な設定項目が整然と並んでおり、ルーターの設定経験があればまず迷うことはないはずだ。DR-1WLは、パワーユーザー向けの、やや高度な機能をローコストで実現できる。なおISDNに接続するには別途DSUが必要。またルーター機能のない低価格アクセスポイントAP-3もある。



ダイアルアップルーター  
アクセスポイント

価格	DR-1WL (アクセスポイント・ルーター)	29,800円
	DR-1WL用DSUユニットUX-153	9,800円
	AP-3 (アクセスポイント + 無線LANカード × 1)	34,800円
	無線LANカードSL-1100 (PCカード)	16,800円
	PCIバス用無線LANカードアダプターSA-1PCI	7,500円
問い合わせ	アイコム情報機器 (株) (06-6793-1101)	
	<a href="http://www.icom.co.jp">www.icom.co.jp</a>	



低価格で無線LANしたいならコレがおすすめ!

## コレガ Corega Wireless LAN APRS-11

コレガの無線LANはとにかく価格がスゴイ。おそらく、店頭に並んでいる無線アクセスポイントの中で一番安い値段を付けているのがコレガのWireless LAN シリーズだろう。たとえばcorega Wireless Pack-11は、アクセスポイントに無線PCカードWireless LAN PCC-11を2枚セットにしたスターターパックだ。全般的に安くなったとはいえ、アクセスポイントとカード2枚で6万円以上するだけに、少しでも安ければありがたい。

ただ、コレガも最近は低価格路線とは別に、ルーター機能を搭載したcorega Wireless LAN APRS-11などの発売も開始している。この新しい製品はおもしろい。TAやモデムと接続するためのシリアルポートを持ち、このポートからPPP接続することによってルーターとして機能させることができる。これに加えて、イーサネットPCカードを拡張

PCカードスロットにセットすることで、CATVやADSLにも対応が可能になる。つまりこれ1台で、アクセスポイント、TAやモデムに対応したルーター、CATVやADSLに対応したルーターの3役をこなす。この拡張PCカードスロットには、LANカードのほかにもカードモデムやPHS通信カードなどをセットして使うこともできる。

アクセスポイントのインストールは、いくつかの作業が必要となるがそれほど難しくはない。まず、本機用にIPアドレスを設定する。これは、シリアルポートに接続したパソコンで行うか、一時的に設定用のパソコンのIP設定を変更して行う。DHCPクライアント機能がないので、ちょっと面倒だが一度設定してしまえばOKだ。あとは、無線のESSIDとチャンネルを指定するが、これらはブラウザで簡単に設定可能だ。

ダイアルアップルーター

アクセスポイント



価格	Wireless LAN APRS-11(アクセスポイント・ルーター) 32,800円
	Wireless Pack-11(アクセスポイント+無線LANカード×2) 57,500円
	Wireless LAN Set RS-11(APRS-11とイーサネットカード、PCカードのセット) 48,800円
	無線LANカードWireless LAN PCC-11(PCカード) 14,800円
	無線LANカードWireless LAN PCIA-11(PCIボード) 19,800円

問い合わせ (株)コレガ(0120-267342)

[www.corega.co.jp](http://www.corega.co.jp)

100BASE-TX対応の低価格無線LANパッケージ

## エレコム Air@Hawk LD-WL11/PACK

LD-WL11/PACKは、100BASE-TXポートを備えたアクセスポイントLD-WL11/APに、IEEE802.11b準拠の無線LANカードLD-WL11/PCCが2枚付属する。有線LANのインターフェイスが10BASE-T規格の製品がまだ多い中、LD-WL11/PACKはすでにLANのスタンダードになっている100BASE-TXに対応した製品だ。

アクセスポイントや無線LANカードとも、ごく標準的な構成の製品だが、アクセスポイントのデザインはちょっとしたこだわりを感じさせる流線型で、フリップできる(自在に起こせる)アンテナが特徴的だ。ダイアルアップルーターやNAT機能などを搭載したモデルは用意されておらず無線LANに徹した製品だが、なによりローコストだし、とにかく無線LANだけが必要なユーザーの選択肢としては必要にして十分だろう。

アクセスポイントの設定は、RS-232Cポート経由で、専用の設定ユーティリティーを使って行う。設定ユーティリティーが動作するOSは、ウィンドウズ95/98/NT4.0/2000のいずれか。2001年8月にはブラウザによる設定に対応予定とのことだが、これはまだ先の話。当面はユーティリティーを使って設定することになる。設定ユーティリティー自体は、無線LANの基本的な設定を簡単に行える。ESSIDやIPアドレスの設定や、暗号化技術のWEPキー設定など、IEEE802.11bの標準的な設定をシンプルな画面で実現している。このユーティリティーは、ブラウザ設定よりもラクかもしれない。

なお、どうしてもUNIXやマックintoshで設定したいときは、シリアルポートに接続したターミナルソフトで設定を行うか、telnet経由で設定すればよい。

アクセスポイント



価格	LD-WL11/AP(アクセスポイント) 32,800円
	LD-WL11/PACK(アクセスポイント+無線LANカード×2) 59,800円
	無線LANカードLD-WL11/PCC(PCカード) 16,800円
	無線LANボードLD-WL11/PCI(PCIボード) 22,800円

問い合わせ エレコム総合インフォメーションセンター(03-5337-3024)

[www.elecom.co.jp](http://www.elecom.co.jp)





簡単設定のTAで、インターネットも電話も無線にしたい!

## NEC AtermIW70 & RC45ワイヤレスセット

AtermIW70 & RC45 ワイヤレスセットは、無線対応のTAと専用無線PCカードがセットになっている。RC45は、外ではPHSや携帯電話機と接続してデータ通信もできる1枚2役の重宝なカードだ。RC45の代わりに、デスクトップパソコンやUSBで接続したい場合のリモートステーションRS7とのセットや、電話も無線で使いたい場合のリモートステーションRS20とのセットも用意されている。また、ドコモとアステルのPHS電話機を子機として登録できるので、普通の電話機を持たずPHSだけで、家の中でも外でも自由自在に使うことができる。このように、電話も無線にできる点が、無線LANとの最大の違いだ。無線対応ルーターの中にはこれに近い機能を実現しようとしているものもあるが、今のところAterm ワイヤレスシリーズの独壇場といってもいいだろう。

最新Atermシリーズの特徴は、ITMUX機能によって、まるでルーターを使っているかのように、1つの接続で2台のパソコンからインターネットを利用できること。1台はシリアルポートかUSBで親機(AtermIW70)と接続するという条件はあるが、現実的に2台

のパソコンで同時に使用するシチュエーションでは問題にはならないだろう。たとえば、1階の居間で家族の使うパソコンをUSB接続でAtermIW70に接続し、2階の書斎ではノートパソコンで使うというような使い分けならば、このワイヤレスセットがピッタリだ。

すべての設定はインターネット接続から無線まで「らくらくアシスタント」が文字通り手取り足取り行ってくれる。TAのインストールやダイヤルアップ接続の設定なども行ってくれるこのユーティリティさえあれば、難しい話は一切ナシで誰にでも使うことができるはず。さすがにダイヤルアップルーターでは真似のできない簡単さ、わかりやすさだ。複数のパソコンを使ったアクセスの快適さではルーターに分があるのは事実だが、その分ネットワークなどの知識がどうしても必要になってくる。そのようなわずらわしさや、うまく動かないときの対処の難しさを考えると、確かに初心者にはこのようなTAを使った無線の利用も悪くない。ただし、プリンターを共有したりファイル共有したりといったネットワークの機能が欲しい場合の選択は、TAではなく無線LANになる。

無線対応TA



価格	AtermIW70 & RC45ワイヤレスセット	61,800円
	AtermIW70 & RS7ワイヤレスセット	52,800円
	AtermIW70 & RS20ワイヤレスセット	61,800円
	AtermIW70(無線対応TA)	41,800円
	マルチモバイルカードRC45	27,800円
	リモートステーションRS-20	24,800円
問い合わせ	Atermインフォメーションセンター (0120-36-1138)	
	izaware.com	

Product Showcase

## やっぱり無線LANなら WARPSTARシリーズ

このシリーズはAtermワイヤレスシリーズの無線をIEEE802.11bの無線LANに変更したものだと思えばいい。無線LANを使うのでPHS子機の収容など電話の無線化に関する機能は搭載されない代わりに、無線LANの11Mbpsの通信速度が利用できる。ルーターではないが、もちろん複数のパソコンからの同時接続には対応している。プロバイダーと接続してインターネットを利用するだけなら、ルーターでなくても十分なのだ。Atermシリーズのお家芸である充実したアナログ

ポート、電話機能と先進の無線LANが一緒に使えるのが、このWARPSTARシリーズのよさだ。TA内蔵のWL50Tか既存のTAを利用するWL30Aに、USBまたはPCカードの子機がセットされている。

価格	AtermWL50T & WL-11UワイヤレスLANセット(子機がUSBタイプ)	オープンブライ
	AtermWL50T & WL-11CワイヤレスLANセット(子機がPCカードタイプ)	オープンブライ
	AtermWL30A & WL-11UワイヤレスLANセット(子機がUSBタイプ)	オープンブライ
	AtermWL30A & WL-11CワイヤレスLANセット(子機がPCカードタイプ)	オープンブライ
問い合わせ	Atermインフォメーションセンター (0120-36-1138)	
	izaware.com	





## 無線LAN・ルーター主要機能一覧表

製品名	MN128-SOHO Slotin	RT60w	KX-HGW100	CMZ-RT-W5(ワイヤレスセット)	AirStation WLA-L11
発売元	(株)エヌ・ティ・ティ・エム・イー	ヤマハ(株)	九州松下電器(株)	NEC	(株)メルコ
問い合わせ先	0120-128064	03-5715-0350	03-5821-3180	0120-498563	052-619-1827
URL	www.bug.co.jp/mn128/	NetVolante.rtrp.yamaha.co.jp	www.pcc.panasonic.co.jp/ps/	ccsd.biglobe.ne.jp/comstarz/	www.melcoinc.co.jp
標準価格	59,800円	69,800円	44,800円	54,800円(無線LANカード×1が付属)	33,000円
セット価格など	89,800円(無線LANカードが2枚付属のAirPack11)	—	—	—	各種モデルあり。詳細は製品紹介ページを参照
無線LAN	IEEE802.11b	IEEE802.11b	Whitecap™	IEEE802.11b	IEEE802.11b
Wi-Fi対応	—	x	x	x	—
通信速度	1/2/5.5/11Mbps	1/2/5.5/11Mbps	11Mbps	1/2/5.5/11Mbps	1/2/5.5/11Mbps
暗号化	WEP	WEP	—	WEP	WEP
MACアドレスフィルター	—	—	—	—	—
ローミング	—	—	x	x	—
無線ブリッジ機能	—	—	x	x	x
接続クライアント数	最大128台、推奨10台以下	32台	32台	127台、推奨10台以下	253台
採用LANチップ	—	—	—	Intersil PRISM	ルーセント
ルーター	DSU内蔵	—	—	—	—
WAN側回線	ISDN、OCNエコノミー、128K専用線	ISDN、OCNエコノミー、128K専用線	10BASE-T(CATV、xDSL)	—	—
ルーティング方式	RIP/RIP2/スタティック	RIP/RIP2/スタティック	RIP/スタティック	—	—
アドレス変換	NAT/IPマスカレード	NAT/IPマスカレード	NAT/IPマスカレード	—	—
VPN機能	PPTP/lpsec	lpsec	x	—	—
syslog	—	—	x	—	—
DHCPサーバー	—	—	—	—	—
TA機能	シリアル/USB	x	x	—	—
有線LAN側ポート種別	10BASE-T	10BASE-T	10BASE-T/HomePNA2.0	10BASE-T	10BASE-T/100BASE-TX
ハブ内蔵	4ポート	4ポート	x	x	x
設定方法	ブラウザ	—	x	x	x
	telnet	—	x	x	x
	シリアルポート	—	x	x	x
	専用ツール	—	—	—	—
対応OS	設定らくだ ウィンドウズ98/98/Me/2000	パソコンセットアップユーティリティ ウィンドウズ95/98/2000/MacOS	x ウィンドウズ95/98/Me/2000/NT4.0	設定ユーティリティ ウィンドウズ98/Me	簡単導入ウィザード ウィンドウズ95/98/Me/2000/ NT4.0/MacOS 2
サイズW x H x D(mm)	78 x 180 x 210	164 x 229 x 101	271 x 204 x 55	126 x 40 x 227(アンテナ部含む)	205 x 170 x 76
重量	1.4kg	950g	795g	138g	510g
その他	—	—	—	別添付スターズルーター/ネオが必要	—
無線LAN PCカード	SS-LAN CARD 11	—	KX-HGC100	CMZ-RT-WP	WLI-PCM-L11
価格	16,800円	—	27,800円	19,800円	14,800円
対応OS	ウィンドウズ98/Me/2000	—	ウィンドウズ95/98/Me	ウィンドウズ98/Me	Windows Me/2000/98SE/98/ ウィンドウズ95/98
電圧	3.3V	—	—	5V	5V
サイズW x H x D(mm)	54 x 11.6 x 118.2	—	—	110 x 7 x 54	54 x 5 x 118
重量	46g	—	—	38g	45g
その他	—	—	2001年1月下旬発売予定	—	PCI用無線ボードあり

製品名	DR-1WL	corega Wireless LAN APRS-11	LD-WL11	AtermiWX70&RC45ワイヤレスセット
発売元	アイコム(株)	(株)コレガ	エレコム(株)	NEC
問い合わせ先	06-6792-4949	0120-267342	03-5337-3024	0120-36-1138
URL	www.icom.co.jp	www.corega.co.jp	www.elecom.co.jp	izaware.com
標準価格	29,800円(DSU別売)	32,800円	32,800円	61,800円
セット価格など	—	各種モデルあり。詳細は製品紹介ページを参照	59,800円(無線LANカード2枚付属のLD-WL11/PACK)	各種モデルあり。詳細は製品紹介ページを参照
無線LAN	IEEE802.11b	IEEE802.11b	IEEE802.11b	—
Wi-Fi対応	対応予定	x	x	—
通信速度	1/2/5.5/11Mbps	1/2/5.5/11Mbps	1/2/5.5/11Mbps	—
暗号化	WEP	WEP	WEP	—
MACアドレスフィルター	—	—	—	—
ローミング	—	—	—	—
無線ブリッジ機能	—	x	x	—
接続クライアント数	64台	253台(理論値)	253台(理論値)	—
採用LANチップ	Intersil PRISM	Intersil PRISM	Intersil	—
ルーター	DSU内蔵	—	—	—
WAN側回線	ISDN、OCNエコノミー、128K専用線	—(シリアルポートでTA/モジュ接続)	—	—
ルーティング方式	RIP/スタティック	スタティック	—	—
アドレス変換	NAT/IPマスカレード	NAT/IPマスカレード	—	—
VPN機能	lpsec	—	—	—
syslog	—	—	—	—
DHCPサーバー	—	—	—	—
TA機能	x	—	—	—
有線LAN側ポート種別	10BASE-T/100BASE-TX	10BASE-T、PCカードスロット	10BASE-T/100BASE-TX	—
ハブ内蔵	x	x	x	—
設定方法	ブラウザ	—	x	—
	telnet	—	—	—
	シリアルポート	x	—	(親機側×1)USBポート(親機側×1)
	専用ツール	( 1 )	—	—
対応OS	—	—	設定ユーティリティ	—
サイズW x H x D(mm)	230 x 38 x 167	ウィンドウズ95/98/Me/2000/NT4.0 176 x 40 x 142	ウィンドウズ95/98/Me/2000/NT4.0 141 x 47 x 183	ウィンドウズ98/Me/2000/MacOS8.6/9.0 136 x 176 x 96
重量	900g	370g	345g	600g
その他	ルーター間通信機能 DR-1WL同士	—	—	親機側にアナログポート×2
無線LAN PCカード	SL-1100	corega Wireless LAN PCC-11	LD-WL11/PCC	RC45
価格	16,800円	14,800円	16,800円	27,800円
対応OS	ウィンドウズ95/98/Me	ウィンドウズ95/98/Me/2000/NT4.0	ウィンドウズ95/98/2000/NT4.0	ウィンドウズ95/98/Me/2000/CE
電圧	3.3V	3.3V	5V	5V
サイズW x H x D(mm)	110.5 x 5 x 54	124.2 x 9.2 x 54	124 x 8 x 55	109.6 x 9.3 x 54
重量	39g	53g	25g	50g
その他	PCI用アダプタあり	PCI用無線ボードあり	PCI用無線ボードもあり	—

1 設定初期化、ファームウェアのアップデートのみ 2 マックintosh用設定ソフトはなし



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)